

ごあいさつ



山口県高等学校体育連盟

会長 原井 進

第72回山口県高等学校総合体育大会が、5月29日から31日までの3日間を中心に、柳井学園高等学校2年岡田 亜沙美さんの作品「実現させたい夢がある～相手を敬い、本気の勝負 今、開幕～」のスローガンの下、盛大に開催できますことを大変うれしく思います。

この大会は、31競技に県下76校、8,618人の高校生が覇権をかけて競う、山口県最大の高校スポーツの祭典です。大会の勝者の多くが高校生アスリートの夢舞台でもあるインターハイへの出場権を得るものであり、この大会を目標に各選手・チームは、これまで練習を重ね、競技力を高めてきたと思います。選手の皆さんが、これまでの練習の成果を十分に発揮されることを願うとともに、皆さんの健闘と高校生らしいはつらつとしたプレーを期待しています。

また去年は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、夏のインターハイをはじめとする各種大会が中止となる中、県、県教委、各専門部をはじめとする関係の皆様御支援と御協力により、「やまぐち高校生2020メモリアルカップ」が開催されましたこと、改めて感謝いたします。

さて、今年度当初全国を明るくするニュースが飛び込んできました。白血病を公表し、抗がん剤治療などの厳しい治療と戦ってきた競泳の池江璃花子選手が東京オリンピックの代表選考会を兼ねる日本選手権で4冠を達成し見事代表に内定しました。レース直後のインタビューでは「辛くしんどくても、努力は必ず報われると思った。五年前の五輪選考会よりもずっと自信がなかったし、自分が勝てるのはずっと先のことだと思っていた。でも、このタイムでは世界と戦えない。さらに高みを目指していきたい。」と結果を素直に喜びながらも、常に高みを目指して努力し続けることの大切さも我々に教えてくれました。

今年もインターハイ出場をかけて、これから県内各地で熱戦が繰り広げられます。7月24日から福井県を中心に新潟県、富山県、石川県、長野県及び和歌山県で開催される「輝け君の汗と涙 北信越総体2021」において、山口県の高校生のこれまでの努力が実を結び、元気と感動を県民に届けてくれることを心から願っております。

結びになりますが、本年度も今大会を共催していただいております山口新聞社様、そして今大会をはじめ日々の練習の指導に御尽力いただいております各学校の先生方、高校生を温かく支えていただいております保護者の皆様方、さらには、山口県並びに山口県教育委員会をはじめ高校生の運動部活動に格別の御理解と御支援をいただいております各競技団体の関係者の皆様に対し、深く感謝とお礼を申し上げ、あいさつといたします。